

2学年 関西方面へ修学旅行
 (11月27~30日)

1日目 (京都・北野天満宮、金閣寺、清水寺)。2日目 (班別研修)。

3日目 (ユニバーサルスタジアム)。最終日 (クラス別研修・明石、大阪、奈良、神戸) と充実した研修を行いました。関西の人・町・風土に触れながら仲間と過ごした、思い出深い旅行となったに違いありません。



北野天満宮の手水



神戸異人館でのクラス研修

人材育成を目的とした高大連携事業

河端教諭の体育の授業



尚綱学院大、仙台大学生が教職研修

大学生が本校を訪問し、授業参観、授業解説、講話を通し、教職について学びました。これは、これからの宮城の教育を担う人材育成を目的とした連携事業で、11月14日には尚綱学院大生が公民の授業に、12月6日には仙台大生が保健体育の授業に参加しました。参加した学生からは「良い授業とは教師の試行錯誤によって作り出され、工夫する大切さを感じました」(尚綱学院大生)、「いかにマイナスイメージを残さないよう助言するかが大切かに気づかされました」(仙台大生)、「教員になりたいという意識がさらに高まり、早くから現場を実際に見ることが大切だと思いました」(仙台大生)等の感想をいただきました。

授業解説を行う小川教諭

本校はこれからも地元の大学と連携し、若い人材の育成に努めて参ります。



修学旅行を終えて

修学旅行委員長 里村璃句

(2年・秋田勝平中出身)



高校生活の大きな行事と言われる修学旅行。終えてみると、あっという間の4日間でしたが、普段感じることでできない思いをたくさん味わい、友人との仲間とぐっと深まった旅行でした。

飛行機に初めて乗る者も多く、不安と期待の混じった仲間のリアクションも印象深いものでした。班別研修では下調べはしているものの、初めて訪れる京都の景色など、その土地ならではのムードがあるのは興味深かったです。裏路地に入って昼食を摂ったり、USJのアトラクションを楽しんだり、クラス別研修では神戸の町を散策するなど、ずっとワクワクした旅行でした。

旅行前からそれぞれ計画を立て、無事に行程を終えることができ、委員長として貴重な経験ができました。お世話になったすべての方々と協力してくれた仲間へ感謝いたします。

1年女子体育「エイサー発表会」開催

瀬田川菜々香 (1年・名取一中出身)

毎年1年生恒例のエイサー発表会。半年前に初めて振りを教わってから、11月17日の発表会まであっという間でした。何もわ



からない状態から始まり、最初は人に任せっぱなしで隊形や動作がなかなか決まらない時期もありましたが、やがて皆が意見を出し合うようになり、その結果、団結力が深まりより良いものになって行きました。そして皆で気持ちを一つにすることで



大きな達成感を感じることができました。踊ることも勿論ですが、どのクラスにも様々な工夫がなされ、見ていてもとても楽しい発表会でした。授業を通じてとても大切なものをたくさん学んだと思います。



常磐線

浜吉田・相馬間運転再開

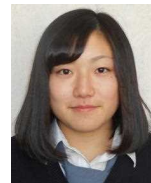
待ちに待った運転が5年9か月振りに再開し、本校では32名の生徒が、内陸に新たに建てられた山下駅、坂元駅からJRを利用して通学できるようになりました。

開通にあたって

門間陽香 (3年・坂元中出身)

12月10日、仙台・原ノ町間直通の列車運行が再開し、とても嬉しく思います。線路や駅舎が完成してゆくのを日々目にし、この日を待ち望んでいました。今までは代行バスを利用していましたが、乗換もあり、通学には片道1時間半かかっていました。そのため毎朝が大変でしたが、これからは30分で名取に着きます。あんなに嫌だった代行バスなのに、最終日は寂しく感じました。これからはほとんどん電車を利用していきなす。

高架式に建てられた坂元駅に電車が入る



同窓会主催 吉川団十郎さん講演会 『すばらしきかな人生』開催 12月7日 名取市文化会館

名取を中心に活動する音楽家・陶芸家の吉川団十郎さん。生い立ち、増田川沿いで作った歌のエピソード、『ああ宮城県』の大ヒット、引退、中国貴州省ミャオ族等の少数民族への支援、そして震災と、常に新たな生き方に挑戦し続ける団十郎さんの生き方を、歌を交えて語っていただきました。「美には誰にとっても美しいと感じる統一美というものがある。到達への道は人それぞれ。個性を交えることにより美は芸に至る」と、人の基盤とすべき美への感性の大切さを伝えていただきました。



人と関わる大切さ

同窓会長 郷内知明（としあき）さん（2回生・昭58卒）へのインタビュー

同窓会主催講演会の企画を始めた理由は何ですか？



同窓会として、もともと後輩である生徒の皆さんに関わりたかったのかきつかけです。自分の興味関心だけにしか心を開かない人にはなっていて欲しくない。どんな仕事も、誰かを支え、誰かに支えられ成り立っています。人と関わる大切さに気づいてもらう機会になればと思います。今年で3年目の講演会となりました。

高校時代はどんな時期だと思えますか？

今、高校生の頃を思い返すと、お互いに支え合い一所懸命だったのだと感じます。しかし、当時は強く意識しておらず、卒業後改めて、同じ学校、同じ教室で学んだ奇跡的な出会いに支えられていたことに感謝するようになりました。特に震災を経験した名取の間として、出会えた奇跡の大切さを思っています。それがわかるならば、この世から「いじめ」などなくなると思っています。

北高生へのメッセージをお願いします

北高生の頑張る姿は地域でも評価されており、地域の中心として活躍する多くの卒業生の間でも、現在の北高生の話題が良く出ます。社会に出て必要なのは、誰に対しても挨拶ができ、自らより高みを目指して周囲に提案する発信力やコミュニケーション力です。北高生は可能性も情熱もあり、文武両道を実践しているのに、どちらかというと大人しいイメージを持たれています。実は熱いものがあることを隠さず、学校生活や行事でも、率先してアクションやリアクションを起してください。これからも応援しています。

書道部 県高校書道展 最高賞2名受賞



漢字の部・推薦（最高賞）に佐々木歩香さん（3年・袋原中出身）の『千字文』（前々号で紹介）と倉田遥夏さん（2年・六郷中出身）の『杜甫・春望』が選ばれました。他に特選に7点、金賞に4点が入賞しました。

受賞作について

倉田遥夏

工夫したところは「はたく」です。「はたく」とは右払いに見られる独特の払いで、隷書ではこれがバランスの基本となるため、どっしりと重く書きました。他には、縦の線は太く、横の線は細くなるように強弱をつけ、全体の字を揃えることを意識しました。

今回、受賞ができとても光栄です。来年は宮城県で全国大会が開催されるので、より一層精進して参ります。



写真部 県高校写真展 入選



入選に小松瑞季さん（2年・中田中出身）の『涼風～夏の煌めき～』が選ばれました。他、奨励賞に1点入賞しました。写真部は「文化祭inますだ」（10月23日・増田公民館）に参加する等、地域イベントにも意欲的に参加しています。

受賞作について 小松瑞季

新潟の長岡花火大会で撮影しました。滝のような花火と人影のシルエットで、夏の涼しさを表現できる一枚になりました。県展で賞をいただくことができ、嬉しく思います。これからはもっと良い写真が撮れるように頑張っていきたいです。



生徒達の心が少しでも和むようにと、生徒昇降口にツリーを飾りました。

卒業生 岸 孝之選手（22回生・平15卒） 東北楽天に移籍

11月18日、本校OBで球界を代表する投手 岸孝之さんの、埼玉西武ライオンズから東北楽天ゴールデンイーグルスへの入団会見が行われました。「地元に戻るの今は今しかない。東北を盛り上げ、今まで支援活動をできなかった分も、被災地の力になれることは何でもしたい」とコメントがありました。更なる活躍が楽しみです。

岸先輩を励みに 野球部主将

大友一志（2年・槻木中出身）

名取北高校野球部の先輩である岸選手が東北楽天の一員となってくれたことをとても嬉しく思います。今まで以上に岸先輩の存在が近く感じられ、チームの励みになっています。その思いを胸に、自分たちの目標を達成できるよう今後もしっかり取り組みを続けます。そして自分たちのプレーで岸先輩を応援できるよう頑張ります。



【宮城県名取北高等学校】

〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田103

TEL 022-382-1261 FAX 022-384-8976

HP <http://natorikita.myswan.ne.jp>

mail chief@natorikita.myswan.ne.jp

(担当) 教頭・町田尚彦

(学校だよりのご感想をお寄せください)

